

① オナー's アpartment

① 街家オナー・アパートを選んだ理由

ハウジングセンターや友人の家に足を運び、「塗り壁と無垢の木の床」は外せないポイントを決めました。するとどのハウスメーカーも「できません」。たどりついたのは純和風の川口建設屋さんで、「洋風もできますよ」とのこと。貝学会に「違うなあ」と困っていたら、「お家に建てるとしたら、イメージにもぴったりなところがあります」と紹介してくれたのがきっかけでした。(前置き終り)

車の所の雰囲気も私たちのストライクで、扱われている雑貨や施行例を見せると「コレコレ!!」とあくあくしました。

★南欧風で、カントリーではなく、塗り壁と無垢の木の床、建設地に近い、実際に作ってもらう方が直接話ができる、「営業」という感じにガツガツしていない(笑) ... というのが選んだ理由。実際に打ち合わせをしてみたり作業を進めてくれている中で「やっぱりおれいさんに決めてよかった——」と思うことがたくさんありました。

② 一番の決め手は

一番というところがないですが、木生さんの無骨な感じ(ホキキです)。「これは感じど、これはもしいいけど」という私たちの要望に「も」「ム」「難い」「値が張る」等のマイナス返答がなめれたこと。「いいですね」「おがりました、作り出す」と快く受け入れてもらえたこと。

また、やはりあの雰囲気の高瀬さんはめざしく語りかけたので、フワフワおがままをたべた言えました。何でも言える、言いたる。高瀬さんの大きな窓があるのがいいです。あと、遠方からの打ち合わせだったんですが、メールで対応してくれてくれたことも目がかりました。

③ 打ち合わせ、建築中の一番の思い出は

「多すぎて書ききれませんが」...

- 予算に合わせて不要なものをカットしていく打ち合で、木生さんがSWと瓦を「これは外せません」と言ってきたこと。
- 職人さんってほんとカッコイイ感じをイメージしてたのに、金ツツ然、そうじゃなかったこと。特にこうじ君。
- 後日、そのこうじ君とうちの弟が知り合っていて、引越の日、「うお、ジーク何とんのね」と声をかけたこと。
- ある日突然、古いハリがはられていたこと。
- 納期に間に合うかなあ...と心配していたときの「大丈夫、今の追い上げがうちの90年からの和もようや、慣れたわ」と言ったまよつかさんの名言。
- 普通に会話してても自分の領域の内容になるとやたらと声を張って言説明してくれる沖がおる。
- 玄関と土間に木彫の足跡をつけたって言ったら、車を動かしていたコンクリートをまた塗り直して、木彫の足まで洗ってくれた左官の工さん。

... 思い出があると楽しくて笑えます。

一番と言えば、やっぱり家づくりに携わってくれた方みんなの「家づくりが大好き」が本当に大切で重宝です。最初に言っていたことでも、実際現場で変更したことや、その場で決めたことがたくさんあったのに、まるでそれが当然のように引き受けてくれて、直してくれたことすら「免強にならなす」「こちらがいいね」と言ってくれて、本当に嬉しかったです。

④ 完成して、今の気持ち

友達が来てくれて「木のいい匂いがある」「雑誌に載ると家みたい」「これはにじかした」「別荘ができた」「おが、落ち着く」等言ってもらえるとニヤニヤします。自分の好きなものを集めても、家にちゃんと住むのでしかりと「自分の住みたかった家」にしまったなあと感じます。年月がたつて古くなることも楽しみ、季節が変わるのも楽しみ。超ジマノの家です。何處か旅行に行こうとして「温泉とサウナがある、泊まりとホステルなど...」と探し始めますが、結局「合衆の郷へ行って、家で寝る」のがベストだと落ち着いてしまいます(笑)。

⑤ 「こうすればよかった」「これからこうしたい」

特になく、今が大満足です。4人系内も充分。ただし、子どもが大きくなったら床高90cmのスノースにも飾りつけなどインテリアを楽しみたいなあ...

⑥ これからお家を建てられる方へ

とにかく家づくりが大好きで、自分の家を建てているように丁寧に親切に作業、応対してくれたい。工事が進むにつれてその時、その時の状況に応じて細かいことを決めてくれるので大変なこともありますが、その方が後からこうすれば良かった...とどの後悔が少なくて済みます。話をしている中で私たちの女子を適切に汲みとってくれて、たくさん話を聞いて、自分たちのイテパンを作ってもらって下さい。街家オナー・アパートで間違いないです。